

甲賀広域行政組合消防本部管内における熱中症に伴う救急概要

令和4年8月15日現在

1 熱中症

熱中症とは、暑さや熱の影響による生体への障害の総称であり、正確には、日射病、熱痙攣、熱疲労、熱射病の4つに分類されます。

熱疲労は、入院が必要となる場合があります、熱射病は、重症化することがあります。

2 調査期間

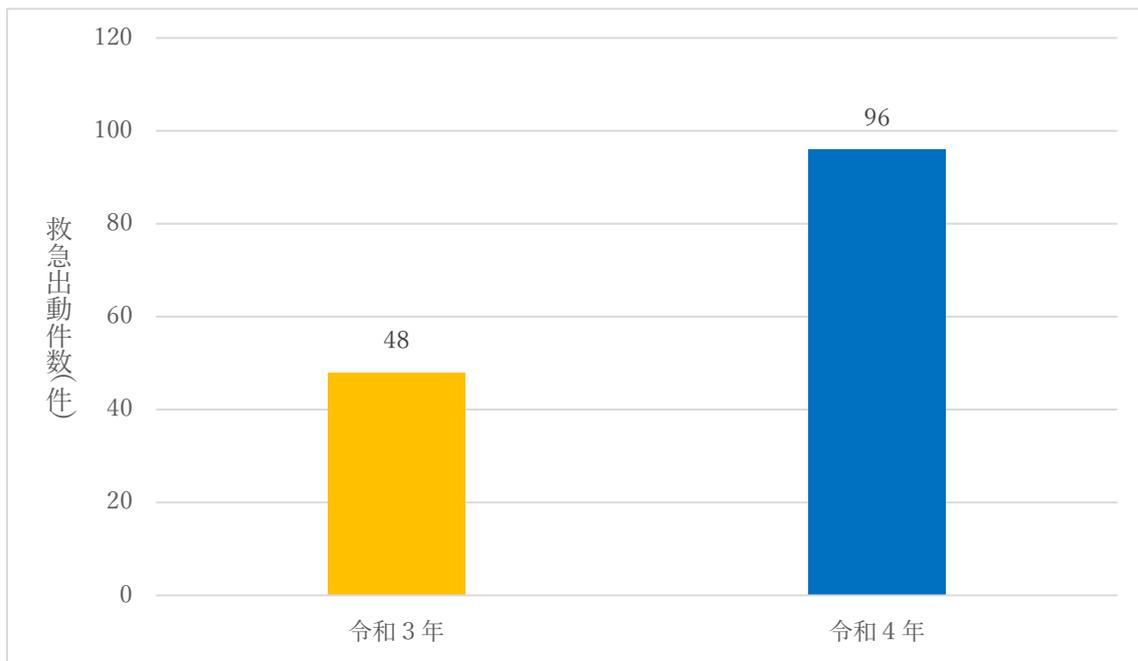
毎年、消防庁から「夏期における熱中症による救急搬送人員数」について調査依頼があり、令和4年の調査期間は4月25日から10月2日までとなっています。

今回の熱中症に伴う救急搬送等の情報は、昨年と同様に令和4年5月1日から8月15日までの情報をとりまとめたものです。

3 救急出動件数及び搬送人員

令和4年8月15日現在の熱中症に伴う救急出動件数は、96件であり、前年と比べて48件増加し、2倍の救急出動件数となっています。

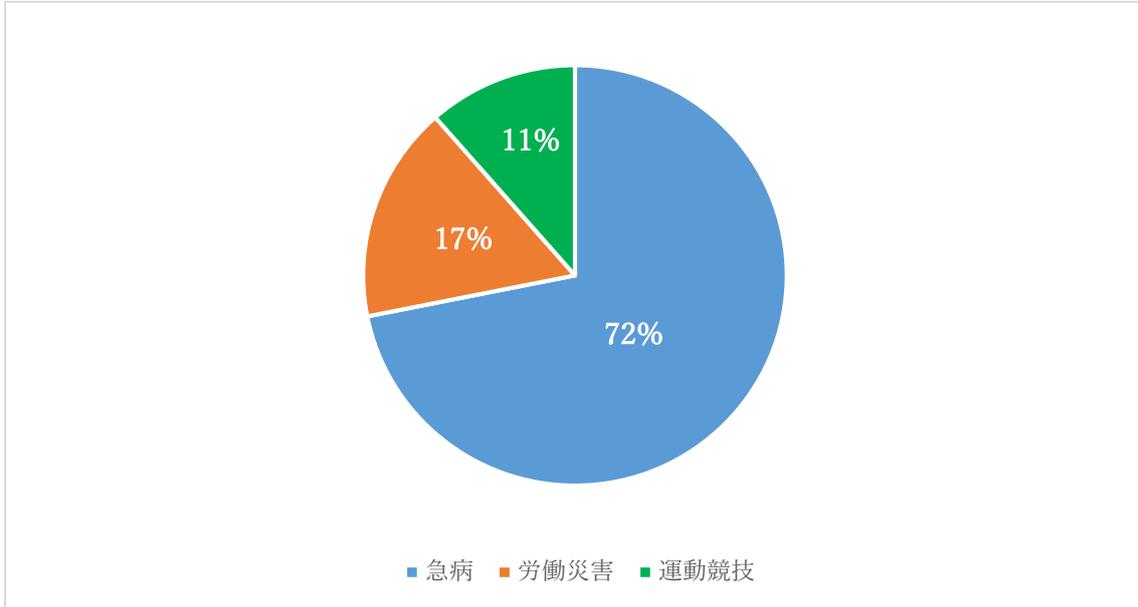
構成市・管轄消防署別の件数は、甲賀市61件（水口消防署23件、土山分署7件、甲南消防署13件、甲賀分署6件、信楽消防署12件）、湖南市35件（湖南中央消防署28件、湖南石部分署7件）、新名神高速道路0件、名神高速道路0件となっています。搬送人員は、98人となっています。



熱中症による救急出動件数（各年5月1日～8月15日）

4 事故種別

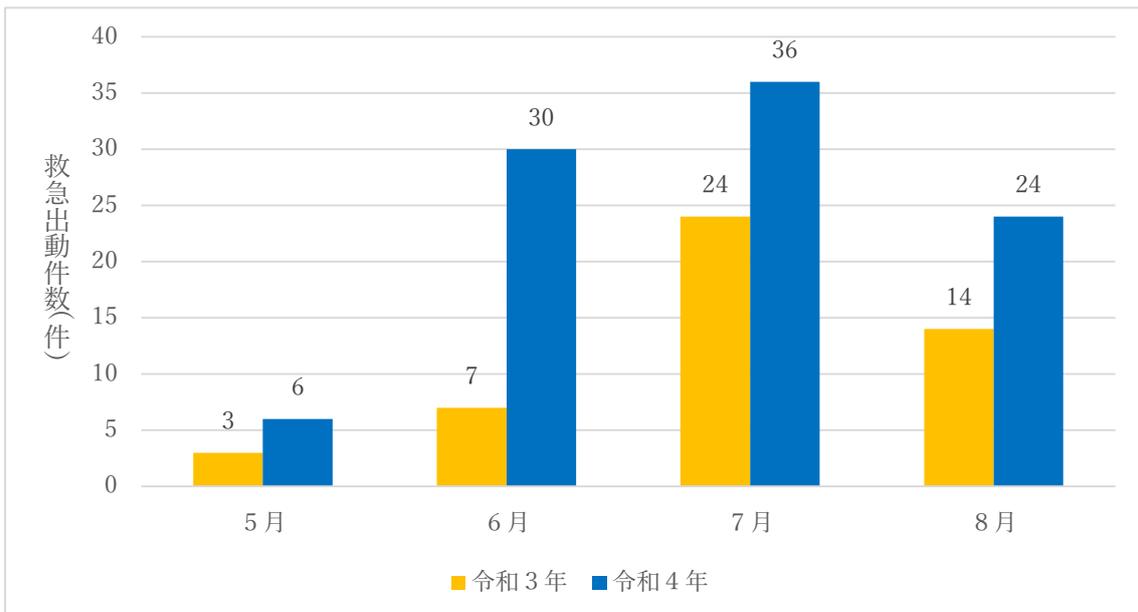
事故種別による出動件数は、急病が69件で全体の約72%と最も多く、次いで労働災害16件（約17%）、運動競技11件（約11%）となっています。



事故種別による出動件数の割合（令和4年5月1日から8月15日）

5 月別出動件数

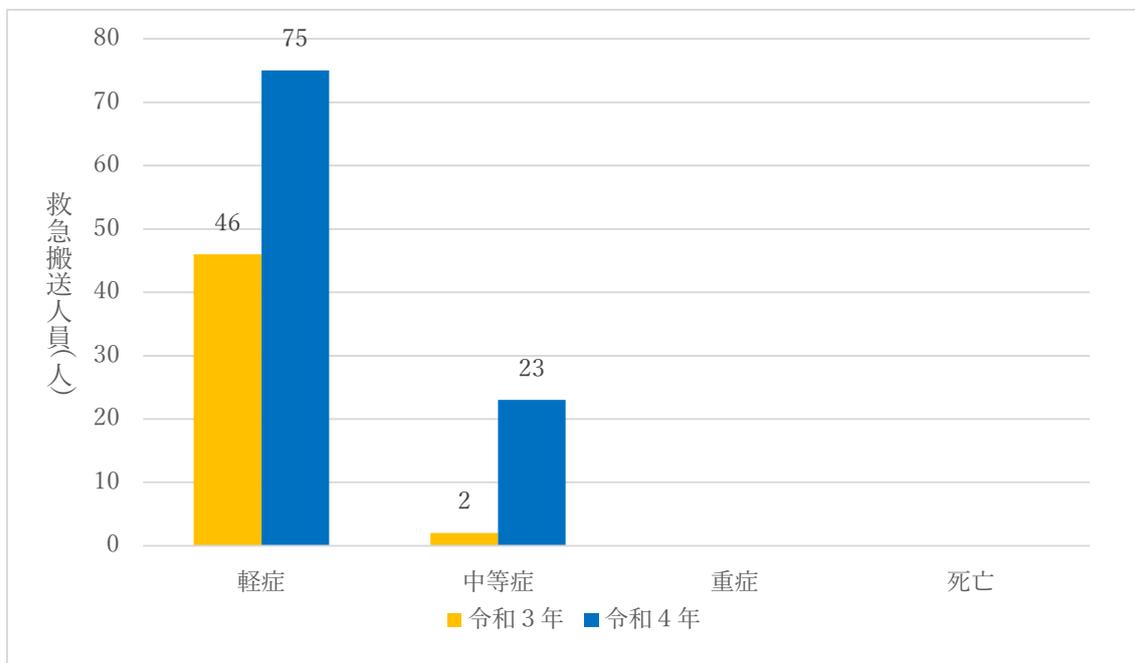
月別出動件数は、7月（36件）が最多となっており、次いで6月（30件）、8月（15日現在24件）、5月（6件）となっています。前年と比べて、各月とも出動件数が増加しています。



熱中症による月別の救急出動件数（各年5月1日～8月15日）

6 傷病程度別搬送人員

令和4年に熱中症により搬送された98人の傷病程度の内訳は、軽症75人、中等症23人、重症0人、死亡0人となっています。前年と比べて、軽症は29人増加し、中等症は21人増加しています。



熱中症による傷病程度別搬送人員（各年5月1日～8月15日）

7 発生場所及び年齢別の救急搬送人員

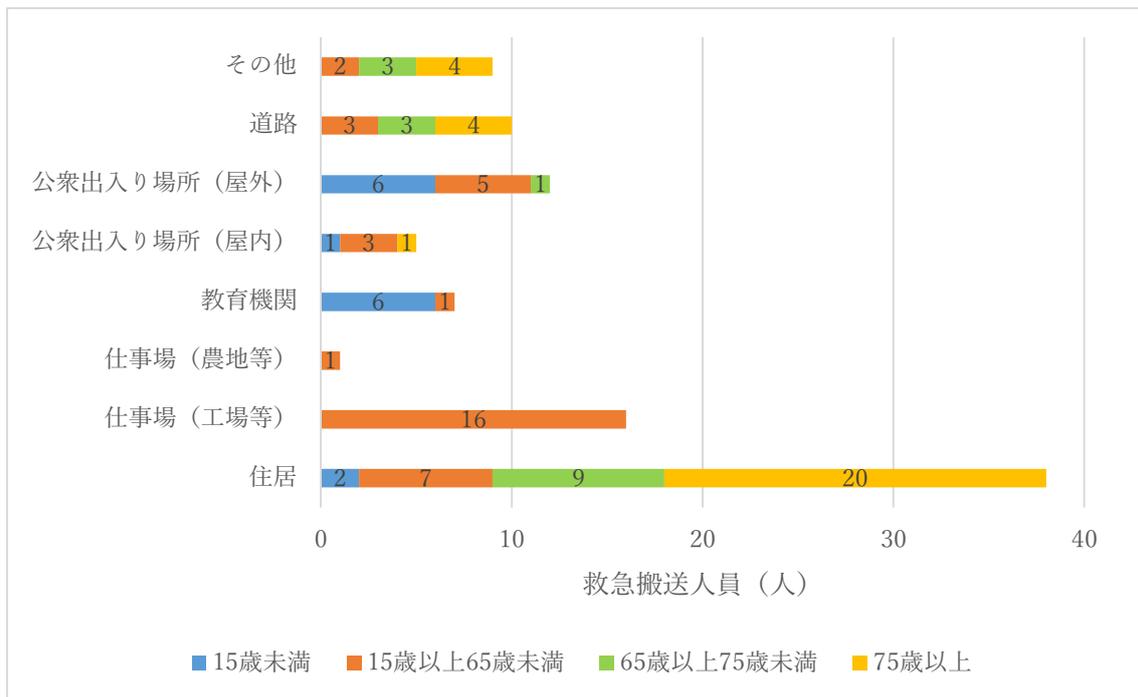
令和4年の熱中症による救急発生場所は、住居が38人で全体の約39%と最も多く、次いで仕事場（工場等）が16人（約17%）、公衆出入り場所（屋外）が12人（約12%）、道路が10人（約10%）、その他が9人（約9%）、教育機関が7人（約7%）、公衆出入り場所（屋内）が5人（約5%）、仕事場（農地等）が1人（約1%）となっています。

年齢別で見ると15歳未満は、教育機関、公衆出入り場所（屋外）が6人と最も多く、次いで住居が2人、公衆出入り場所が1人となっています。

15歳以上65歳未満は、仕事場（工場等）が16人と最も多く、次いで住居が7人、公衆出入り場所（屋外）が5人、公衆出入り場所（屋内）、道路が3人、その他が2人、仕事場（農地等）、教育機関が1人となっています。

65歳以上75歳未満は、住居が9人と最も多く、次いで道路、その他が3人、公衆出入り場所（屋外）が1人となっています。

75歳以上は、住居が20人と最も多く、次いで道路、その他が4人、公衆出入り場所（屋内）が1人となっています。



発生場所及び年齢別の救急搬送人員（令和4年5月1日から8月15日）

8 令和4年における熱中症の傾向

近畿地方の梅雨明けが発表された6月28日から8月15日までの内39日間は、最高気温が30℃を超える真夏日であり、内12日間は最高気温が35℃を超える猛暑日でした。前年と比べても30℃を超える真夏日は29日多く、35℃を超える猛暑日は10日多くなっています。

気温が30℃を超えると熱中症の発生件数が増加する傾向にあります。

気温は8時頃から上がり始め、20時頃まで30℃を超える高い気温が続く状態です。気温が高くなる8時から20時までの間は、熱中症の発生件数が92件（熱中症総件数98件）と多くなっています。また、傷病程度についても同時間帯において、軽症70件（軽症総数75件）、中等症22件（中等症総数23件）となっています。

年齢別に見ると、成人（15歳以上）の発生件数は83件であり、全体の約85%を占めています。

成人の内、65歳未満の割合は約43%、高齢者（65歳以上75歳未満）の割合は約22%、後期高齢者（75歳以上）の割合は約35%となっています。

9 まとめ

熱中症の発症は、気温が上昇する8時頃から増加する傾向があり、気温が下がっても、その余熱が夜間又は翌日以降にも影響し熱中症が発生しやすい傾向が表れています。特に高齢者、後期高齢者は、気温の変化による体の異変に気付きにくく、また、加齢による

体の衰えが原因で熱中症になりやすい傾向にあります。さらに軽症であった場合でも、中等症、重症へと移行する可能性があるため注意が必要です。

近年、新型コロナウイルスの感染防止として、マスクの着用が推奨されており、欠かせない必需品となっています。

夏期の気温・湿度が高い中でマスクを着用すると、熱中症のリスクが高くなるおそれがあります。このため、屋外で人と十分な距離（少なくとも2m以上）が確保できる場合には、熱中症のリスクを考慮し、マスクを外すように心掛ける必要があります。

また、マスクを着用している場合は、強い負荷の作業・運動は避け、喉が渇いていなくてもこまめな水分補給が必要です。

3密（密集、密接、密閉）を避けつつも、熱中症になりやすい高齢者、子ども、障がい者への目配り、声掛けをするようにしましょう。

最後に、令和4年5月1日から8月15日までの熱中症に伴う出動件数は、前年と比べて48件の増加となっています。8月16日以降も真夏日、猛暑日が予想され、熱中症には厳重な注意が必要です。予防対策をしっかりと心掛けるようにしましょう。

甲賀広域行政組合消防本部管内の熱中症における救急搬送事例と予防対策

住居等の屋内で熱中症になった事例

- エアコンを使用せず、意識状態悪化による救急要請
(令和4年6月 87歳女性 軽症 最高気温 31.4℃ 湿度 97.5%)
- エアコンの設定温度が高い部屋にて、発熱及び嘔気による救急要請
(令和4年7月 73歳女性 中等症 最高気温 34.1℃ 湿度 94.7%)
- 高温多湿の部屋にて、意識状態悪化による救急要請
(令和4年7月 83歳女性 中等症 最高気温 32.5℃ 湿度 96.9%)

道路上で熱中症になった事例

- 歩行中、ふらつき倒れたことによる救急要請
(令和4年7月 87歳男性 軽症 最高気温 32.1℃ 湿度 95.2%)
- 自転車を運転中、手足の痺れ、嘔気及び気分不良による救急要請
(令和4年8月 29歳男性 軽症 最高気温 30.3℃ 湿度 94.7%)

屋外の作業により熱中症になった事例

- 野外活動中、気分不良による救急要請
(令和4年6月 9歳男児及び女児 軽症 最高気温 33.8℃ 湿度 94.7%)
- 屋外で仕事中、手足の痺れ発症による救急要請
(令和4年7月 51歳男性 軽症 最高気温 36.4℃ 湿度 80.2%)

屋外で運動中に熱中症になった事例

- サッカーの練習中、気分不良による救急要請
(令和4年7月 9歳男児 軽症 最高気温 35.4℃ 湿度 86.9%)
- バスケットボールの練習中、頭痛及び嘔気による救急要請
(令和4年7月 12歳男児 軽症 最高気温 35.4℃ 湿度 94.1%)

屋内における予防対策

- 屋内では、窓を開けて風通しを良くしたり、エアコン、扇風機等を積極的に使用し、高温多湿な環境を作らないようにしましょう。
- こまめに水分、塩分を補給しましょう。特に子ども、高齢者、障がい者には、周囲の方による事前のサポートが必要であり、喉の渇きを感じる前にこまめに水分、塩分補給を促すことが重要です。
- 新型コロナウイルス感染症を予防するためには、冷房時でも換気扇や窓開放によって換気を確保する必要があります。この際、室内温度が高くなるので、熱中症予防のためエアコンの温度設定をこまめに調整しましょう。

屋外における予防対策

- 喉が渇いていなくても、こまめに水分、塩分補給をしましょう。
- 屋外では日傘、帽子等を使用し、できるだけ直射日光を避けましょう。
- 風通しの良い服装等を心がけ、体に熱を溜めこまない工夫をしましょう。
- 指導者等は、のどの渇きを感じる前にこまめに水分、塩分補給を促すことが重要です。積極的、計画的に休憩を取らせるようにして、体調の変化を見逃さないようにしましょう。
- 人と十分な距離（少なくとも2 m以上）が確保できる場合には、熱中症のリスクを考慮し、マスクを外すようにしましょう。

熱中症警戒アラートの活用

令和3年4月28日から全国で運用開始となった「熱中症警戒アラート」を活用しましょう。熱中症警戒アラートが発表された場合は熱中症対策をより徹底することが重要になります。本消防本部ホームページにも詳細が掲載されています。

熱中症に伴う救急出動状況

年別等		令和3年 5月1日～ 8月15日 (107日間)	令和4年 5月1日～ 8月15日 (107日間)	前年比増減
区分				
出 動 件 数		48	96	48
搬 送 人 員		48	98	50
種 別 (件)	労 働 災 害	10	16	6
	運 動 競 技	8	11	3
	急 病	30	69	39
	転 院 搬 送			0
1 日 平 均 の 出 場 件 数		0.4	0.9	0.5
1 日 平 均 の 搬 送 人 員		0.4	0.9	0.5
1 ヶ 月 平 均 の 出 場 件 数		12.0	24.0	12.0
1 ヶ 月 平 均 の 搬 送 人 員		12.0	24.5	12.5

令和4年 構成市・管轄消防署別救急出動状況(熱中症)

※令和4年5月1日～8月15日

市署別 区分		甲 賀 市					湖 南 市		高速道路		管轄外	合 計
		水口消防署	土山分署	甲南消防署	甲賀分署	信楽消防署	湖南中央消防署	湖南石部分署	新名神	名神		
労働災害	出動件数	4	2	1		2	6	1				16
	搬送人員	4	2	1		2	6	1				16
運動競技	出動件数	2		1	1	1	4	2				11
	搬送人員	2		1	1	1	4	2				11
急 病	出動件数	17	5	11	5	9	18	4				69
	搬送人員	17	5	11	5	11	18	4				71
転院搬送	出動件数											0
	搬送人員											0
小 計	出動件数	23	7	13	6	12	28	7				96
	搬送人員	23	7	13	6	14	28	7				98
合計	出動件数	61					35		0	0		96
	搬送人員	63					35		0	0		98

令和4年 月別救急出動状況（熱中症）

※令和4年5月1日～8月15日

種別 月別区分		労働災害	運動競技	急病	転院搬送	合計
		5月	出動件数	1	1	4
	搬送人員	1	1	6		8
6月	出動件数	5	3	22		30
	搬送人員	5	3	22		30
7月	出動件数	5	7	24		36
	搬送人員	5	7	24		36
8月	出動件数	5		19		24
	搬送人員	5		19		24
9月	出動件数					0
	搬送人員					0
合計	出動件数	16	11	69	0	96
	搬送人員	16	11	71	0	98

令和4年 時間帯別救急出動状況及び傷病程度等（熱中症）

※令和4年5月1日～8月15日

種別 時間	労働災害	運動競技	急病	転院搬送	合計	年齢別					時間帯別傷病程度					
						新生児 生後28日未満	小児 生後125日未満	成人			合計	軽症	中等症	重症	死亡	合計
								16歳以上	67歳未満	75歳以上						
0時～2時					0						0					0
2時～4時			1		1					1	1	1				1
4時～6時					0						0					0
6時～8時	1		1		2			1		1	2	2				2
8時～10時			8		8			3	2	3	8	6	2			8
10時～12時	5	4	12		21		3	8	3	7	21	18	3			21
12時～14時	2	4	22		28		10	7	7	4	28	20	8			28
14時～16時	2	2	12		16		1	5	3	7	16	11	5			16
16時～18時	4	1	5		10		1	7		2	10	9	1			10
18時～20時			9		9			4	1	4	9	6	3			9
20時～22時	2		1		3			3			3	2	1			3
22時～24時					0						0					0
合計	16	11	71	0	98	0	15	38	16	29	98	75	23	0	0	98
傷病程度	軽症	13	10	52		75		14	33	10	18	75				
	中等症	3	1	19		23		1	5	6	11	23				
	重症					0						0				
	死亡					0						0				

令和4年5月1日～8月15日 搬送人員・気温別グラフ

